

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3270200110		
法人名	社会福祉法人 せんだん会		
事業所名	グループホーム かがやきの園		
所在地	島根県安来市安来町960-1 (電話) 0854-23-2252		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(平成20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	20 人	常勤16人(内兼務15), 非常勤4人, 常勤換算5.35人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低 67 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安来第一病院、吉田歯科クリニック、杉原クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは2つのデイサービスと同じ建物にありケアポートやすぎとして職員体制など一体的に運営している。周辺に福祉施設や病院、郵便局、消防署、博物館などがあり、民家は少ないが、地域の人との関わりを持ち、地域での生活が継続できるようにボランティアに来てもらったり、ショッピングセンターや郵便局で作品展を開くなど交流の機会を多く持つようにしている。
理念に「私らしく、貴方らしい生活の継続」を第一に掲げ、日々のケアの中で「その人らしさ」を大切に支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については改善計画シートを使い前向きに取り組んでいる。周辺の地理的環境から改善が難しい内容もあり、継続して取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はホーム担当の職員3人がそれぞれ行ったものを持ち寄り、管理者、職員と一緒に話し合い、新たに取り組んだこと、今後の課題など確認している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市、隣接している高齢者施設の施設長、地域の世話人、家族等の参加で2ヶ月に1回開催している。昨年までは地域包括から参加していたが、今年から市が参加している。周辺は福祉施設や公共施設が多く民家が少ないため自治会世話役等の参加はまだない。行事予定や利用者状況などを議題に話し合っている。防災や地域との連携などの議題はまだ少ない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来園された時に近況や健康状況を報告している。利用料支払いや衣類管理、パッド持参など家族に来てもらう機会も多い。家族会はないが外出行事に家族にも参加してもらい交流の機会を持っている。サービス計画書については担当者会議に参加してもらうよう案内している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣は施設や病院、郵便局、博物館、図書館、消防署など公共施設が多く、便利な環境にあるが民家は少ない。ケアポートやすぎとしてデイサービス2つと一体的に運営しており、ボランティアや小中学校生の体験実習など地域からの訪問は多い。スーパーや郵便局で作品展をしたり、ドライブや買物、祭りなど出かける機会を多く持っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念をスタッフルームやホールに掲示している。「可能性を活用する」ことを大切にしており、手工芸やボランティアによるちぎり絵など活動があり、その作品をスーパーや近くの郵便局で展示することで、地域とのつながりを継続させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のほかに運営方針、ケア方針、ケア目標があり活用している。理念は職員会議や毎日の朝礼の時に確認している。常に利用者本位に考え、利用者が何を希望しているかを把握し、ケアに取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は施設や病院、郵便局、博物館、図書館、消防署など公共施設が多く町内会との付き合いはない。ケアポートやすぎとしてデイサービス2つと一体的に運営しており、ケアポート祭を開催したり、ボランティアや小中学校生の体験実習など地域からの訪問を受け入れている。スーパーや郵便局で作品展をしたり、ドライブや買物、祭りなど出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はホーム担当の職員3人がそれぞれ行ったものを持ち管理者、職員と一緒に話し合い、新たに取り組んだこと、今後の課題など確認している。前回の評価結果については改善計画シートを使い前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、隣接している高齢者施設の施設長、地域の世話人、家族等の参加で2ヶ月に1回開催している。昨年までは地域包括から参加していたが、今年から市が参加している。周辺は福祉施設や公共施設が多く民家が少くないため自治会長等の参加はまだない。行事予定や利用者状況等を議題に話し合っている。防災や地域との連携に関する議題は少ない。	○	運営推進会議は地域にオープンな会議なので、地域との情報交換や地域密着型サービスの課題など、議題の工夫が求められる。また利用者の状況を議題にするときには、プライバシーに特別の配慮が求められる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年から運営推進会議に地域包括支援センターに変わって市から担当者が参加しているが、毎回の参加まではできていない。月1回介護保険事業者が集まるケア会があり、居宅介護支援事業者と医師会関係者と意見交換などがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	衣類交換や毎月の利用料の支払いに来園されるので情報交換したり様子を伝えている。サービス計画書については担当者会議に参加してもらったりしている。かがやき新聞を発行し。ホームでの活動の様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情は来園時に聞くようにしている。家族会はないが外出行事に家族にも参加してもらい交流の機会を持っている。家族からの意見は話し合っ反映させるようにしている。サービス計画書については担当者会議に参加してもらうよう案内している。	○	家族同士で意見交換が出来る機会を持ったり、家族アンケートを試みるなど、更に家族が意見を出しやすいような工夫も望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム、デイサービス2つと一体的な運営をしており、職員のほとんどが兼務体制であるが、3名をグループホーム担当としている。新しい職員はデイサービス勤務、グループホームの日勤、夜勤実習を経て夜勤に入り、利用者混乱やダメージをもたらさないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で多くの研修が計画されており、研究発表もある。認知症ケア研究会は年1回法人全体で取り組んでいる。日頃のケアの中では勉強会など看護師からの指導もあり、非常事態の判断能力養成や自己研鑽をすすめている。管理者はグループホームと施設とのちがいを、複合事業所職員として情報共有の大切さなど意識改革、スキルアップに力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のケア会議に参加している。近くのグループホームや同一法人グループホームとの日常的な交流はできていないが、法人全体の認知症ケア研究会等で研鑽をしている。しまね小規模ケア連絡会の会員になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族に見学に来もらい、本人が納得して入居できるようにしている。入居当初は職員はマンツーマンで見守りして、生活習慣を把握したり利用者同士でなじみの関係ができるようさりげなく支援している。家族との連絡を密にし毎日来園してもらったこともある。デイサービスの利用からの入居もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活経験から教えてもらうようにしている。干し大根作り、梅酒、干し柿など一緒にしながら、職員は利用者から生活の知恵を学び、お互い意見を出し合っている。これまでの人生の喜びや苦労なども話してもらい共感できる関係作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人らしい」生活を支援することをテーマにし、何を望んで何を思っているのかを把握して、ホームの生活で実現できるよう支援している。本人の言葉やちょっとしたひとこと、利用者同士の会話などからキャッチするようにしている。現在の利用者は自分の希望を言葉でしっかりと言うことができる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「その人らしい」をテーマに目標を立てて計画書を作っている。グループホーム担当職員が計画の案を作り、毎月の担当者会議で検討している。家族にも広報紙などで担当者会議の案内をし、なるべく話し合いに参加してもらっている。来園時に計画について説明をし、希望も聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議を開き、定期には3ヶ月に1回見直しをしている。家族にも担当者会議の参加を呼びかけている。特別なことや大きな変化があれば家族や関係者で話し合っ変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診送迎や墓参り、美術館、図書館利用など一人ひとりの個別の希望を大切に、柔軟に対応している。デイサービスとの複合事業所であり、共用型のデイは行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を継続している。受診送迎は基本的には家族とし、入居時に説明している。急病時は家族に付き添ってもらよう入居時に説明している。かかりつけ医から定期的な往診もあり、日頃から相談しやすい関係にある。歯科医の訪問診療もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	正看護師がいないことなどから医療連携体制はとっていない。医療的にホームでのケアが困難になれば退居となるが、重介護となってもなるべくホームでの生活が継続できるよう支援している。入居時に方針を説明しているが、状態が変化すればその都度家族と話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の生活歴や考え方など尊重して関わっている。言葉遣いや接し方は「自分の家族だったら」と置き換えて考えるようにしている。記録はスタッフルームで保管している。運営推進会議の議題や配布している行事予定表に、個人情報として注意が必要な内容が見られる。	○	運営推進会議は地域住民が参加するオープンな会議なので、個人情報の扱いには配慮が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその気になって自主的に、意欲的に取り組めるような接し方をしている。職員は利用者の思いや行動を先取りすることがないよう自主性を尊重し、利用者より前へ出ないようにしている。外食予定を変更して出前をとった時も、同じメニューではなく利用者がそれぞれ好きな物を選んで注文する自由な雰囲気がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は衛生管理上、デイサービスの調理員が主に行い、ホームでは炊飯、夕食の1品、おやつづくりなどを行っている。盛り付けや片付けはホーム職員と利用者が一緒に行い、同じ物を一緒に食べている。誕生月には茶碗蒸しなど希望のメニューを一緒に作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後入浴できるようにしている。一番風呂を遠慮する人、夕食後に入る人などそれぞれの希望を尊重している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が趣味や特技が継続できるようにしている。食事の盛り付けや食器洗い、掃除など家事もある。洗濯物は自室で干せるようにしている。編み物、写経、塗り絵、郷土史のちぎり絵など活動を取り入れている。外部からの講師によるちぎり絵や歌の時間など楽しみも多い。ホーム内に作品を掲示し励みにしている。自宅で畑を作っていた人が多いので玄関前に菜園を作り、生活経験を発揮してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブを行事予定にあげ、希望のところへ出かけている。ホームは2階にあるが、ホーム周りを散歩したり玄関脇で野菜を作るなど屋外に出るようにしている。車はデイサービスと共用にしており、調整しながら活用している。	○	2階にあり、ベランダ等もないので戸外の空気に触れたり、散歩やドライブなど外出の機会を今後も継続して取り入れて欲しい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあり、1階の玄関はデイサービスと共用で事務所もあり見守りもでき、施錠はしていない。階段、エレベーターは自由に使えるが、安全面で利用者一人では困難であり職員が付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ケアポートやすぎとして避難訓練を年2回行っている。スプリンクラーの設置も予定している。ホームは2階にあり、非常階段はあるがスロープやベランダがないので、建物外への避難方法を課題としている。消防署がすぐ近くにあり、環境的には恵まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常の献立はデイサービスの栄養士により管理されている。摂食量はホームで把握し、糖尿病の人は主食で調整している。在宅時に水分を控えていた人もあり、水分摂取の少ない人はペットボトルを使うなど本人も理解できるような方法で支援している。紅茶、スポーツ飲料など好みの物を用意したり、風呂上りなど利用者個々が飲みやすい時に勧めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは広いので食事スペース、ソファやこたつの団欒スペース、活動スペースなど利用者が思い思いに過ごせるようにしている。編み物やちぎり絵、写経などの作品も多く飾っている。トイレは各居室にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室玄関スペースにトイレ、洗面所、戸棚があるが、居室寝室スペースとの間は引き戸で仕切られている。ベッド、テレビはホーム備え付けだがタンスや鏡台等個々に持参している。洗濯物はそれぞれが自室で干せるようハンガースタンドを置いている。利用者は毎朝、自分の部屋の掃除をする習慣もできている。		